

あなたもわたしたちとともに考えてみませんか？

憲法ってなに？ なんかむずかしくて、わたしたちの生活に関係ないんじゃない？ そんなふうに思っていますか？ でも、そこに書いてあることは、わたしたちの生き方の目標です。社会のルールです。

今、わたしたちの暮らしは、世界の人たちの暮らしとつながってなっています。エネルギーも食べ物も衣服も、世界の人たちの力で維持されています。わたしたちの暮らしや生き方を考える時、世界のひとたちがどんな生活をしているか無関心ではられません。

12年前の湾岸戦争、美しい花火のように飛び交うミサイルの閃光は記憶に新しいところです。戦争は終わったと思っていただしたちの耳に飛び込んできたのは、その時大量に使われた「劣化ウラン弾」による、子どもたちのなかでの白血病の多発、異常児出産です。

ベトナム戦争の枯葉剤、さかのほれば広島、長崎の原爆の被害を思い起こされる方もいらっしゃるでしょう。許しがたいことに、今度の劣化ウラン弾は、本来捨ててはならない核兵器開発や原子力発電によって生じた「核のゴミ」を先進国が兵器として撒き散らし、処分した結果なのです。日本も関係していると言われています。

戦争は、その時の被害だけでなく、人類の未来をも閉ざしてしまうものであることが見えてきます。

「平和主義」「国民権」「基本的人権の尊重」。わたしたちの憲法の理念を胸に、今年の憲法記念日をわたしたちとともにすごしてみませんか？

「平和・人権・民主主義を考える」西濃憲法集会

実行委員長 柄澤正人（しずさと診療所長・医師）

劣化ウラン弾って？

劣化ウランは、天然ウランを濃縮する過程でできる核のゴミのこと。

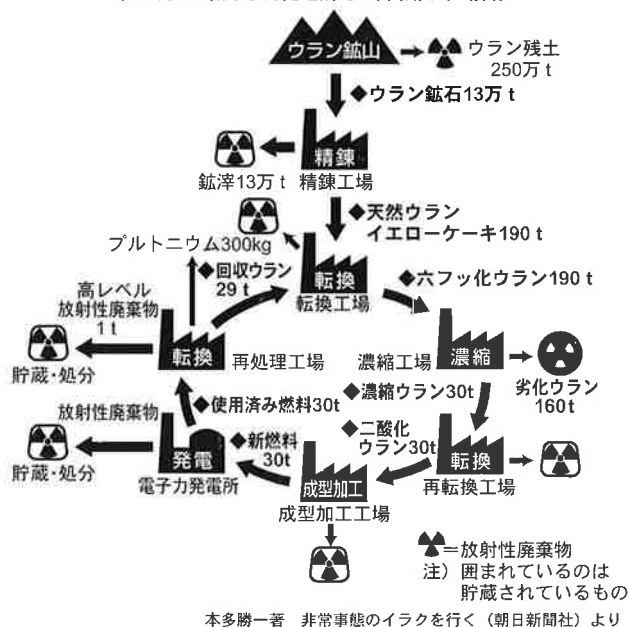
半世紀以上にわたる核兵器開発や核燃料の生産（原子力発電）で副産物として大量にできた。

危険な放射性廃棄物には莫大な保管費用がいる。その始末に困った先進国は、これを兵器として使用することにした。それが劣化ウラン弾だ。

兵器として大量に消費してしまえば、一石二鳥だ。劣化ウラン弾は重くて固い。戦車を貫通する。その摩擦熱で一気に燃焼し、微粒化した放射性ウランは40 km以上も運ばれていく。

湾岸戦争では、広島に落とされた原爆の1万4千倍～3万6倍もの放射性原子が湾岸地域にばらまかれたという。

核燃料サイクルは核のゴミサイクル (100万KW級原子力発電所を1年間動かす場合)



本多勝一著 非常事態のイラクに行く（朝日新聞社）より

森住卓（モリズミ タカシ）さんプロフィール

1951年生まれ、フォトジャーナリスト。51才。米軍基地や環境問題をテーマに取材活動を開始。

1983年より三宅島米軍基地問題の長期取材、共著「ドキュメント三宅島」（大月書店）で1988年日本ジャーナリスト会議奨励賞受賞。

1994年から世界の核実験場の被曝者取材を始める。同年「旧ソ連セミパラチンスク核実験場の村ー被曝者のさげびー」を自費出版、売上げを被曝者の薬代にあてている。同所での写真で96年視点展「視点賞」受賞。

1999年「セミパラチンスクー草原の民・核汚染の50年」（高文研）出版。週刊現代「ドキュメント写真大賞」。第5回平和協同ジャーナリスト基金奨励賞」受賞。

1999年、個展「被曝者のさげびー旧ソ連セミパラチンスク核実験場の村」（東京銀座ニコサロン）開催

2000年、「民族の嘆きーコソボ1999」で写真公募展「視点」奨励賞受賞。「セミパラチンスク草原の民・核汚染の50年」が日本ジャーナリスト会議特別賞受賞。

2002年「イラク・湾岸戦争の子どもたちー劣化ウラン弾は何をもたらしたかー」（高文研）出版。同写真展が日本、アメリカで巡回中。英語版「Children of the Gulf War」（劣化ウラン弾禁止を求めるグローバル・アソシエーション）出版。